会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（本宿自治会）
2　日時	平成 30 年 8 月 26 日（日）13：30～14：30
3　場所	小和田地区コミュニティセンター
4　出席者	（資源循環課）熊澤課長、下舞主任 （環境事業センター）尾坂主幹、安齋担当主査、秋山技能労務主任 （本宿自治会）参加人数：43 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●戸別収集を実施した場合、経費はどの程度増えるのか。他市の状況はどうなのか。 →他市の状況は、約数億円の赤字になっている状況である。本市で戸別収集を実施した場合にかかる経費を、試算している状況である。 ●鎌倉市は、戸別収集を実施すると約２億円の赤字になると試算されていた。 →当初は約２億円の赤字になると試算されていたが、さらに７千万円の経費増加が見込まれたため、戸別収集は議会で否決され、見送られた状況になっている。 ●戸別収集のメリットで、ごみの減量が見込めると記載があるが、他市は、どの程度の量が削減されたのか。 →鎌倉市で、戸別収集のモデル地区の検討が行われている。戸別収集を行ったモデル地区では、ステーション方式より約 3.6%のごみが減量されたことが確認されている。 ●家庭ごみ有料化を実施した場合。どのようにして、お金を徴収するのか。 →実施するか未定であるが、有料袋で徴収している自治体が多い状況である。 ●茅ヶ崎市の人口推移の傾向はつかんでいるのか。 →東京オリンピック後に、人口は緩やかに減少すると想定されている。世帯数は微増の傾向にある。 ●資料１のグラフにおいて、将来予測で約 10%のごみが減ると予想されているが、家庭ごみ有料化によってごみが減るのか。 →将来予測のデータは、今まで通りの収集方法で行った場合の予測である。家庭ごみ有料化を、実施しない事を前提としたデータであり、人口減少と資源物の品目増加で、約 10%のごみが減量されることを予測したデータである。 ●市は経費削減を検討しているのか →ごみ処理方法について検討している。ごみの資源化を検討中であるが、資源化すると経費が増えるので、経費削減とは矛盾する内容となっている。財政のバランスを取りながら、優先順位をつけて検討している。その中に「家庭ごみ有料化」と「戸別収

	集」がある。 ●ごみの問題だけを市民に聞くのは、いかがなものか。市でごみ処理を始めたのはいつからなのか。以前は、剪定枝はごみに出さずに、自然に還していた。市の予算配分を検討することが重要ではないか。本市は狭隘道路が多いので戸別収集は実施されないであろう。ステーション方式の収集が、やっと出来る様になってきている。もっと総合的に検討して欲しい。 以上